

会議録

会議の名称	次期広域最終処分場施設整備事業に係る説明会
開催日時	令和6年5月14日(火) 18:00~19:20
開催場所	仮迫公民館(美郷町)
出席者	<p>仮迫地区長：山下 様 仮迫地区住民：他13名 美郷町町民生活課 黒田課長、中田主査 日向東臼杵広域連合 黒木局長、吉玉係長、黒木主任技師 (株)建設技術研究所 平川主幹、池田主任、和田氏</p> <p style="text-align: right;">14名</p>
議題	最終候補地決定までの経緯や次期広域最終処分場の基本構想、事業に係るスケジュール等についての説明
会議資料の名称及び内容	資料のとおり
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会議内容

- 1 開会
- 2 あいさつ（黒木局長）
- 3 参加者の紹介
- 4 概要説明（進行：日向東臼杵広域連合 吉玉係長）

説明会次第

・次期広域最終処分場施設整備事業に係る説明会(資料)

【事務局】 (資料について、資料内容に沿って説明する)

【司会】 これより質疑応答を始めていきたいと思います。ご意見のある方は挙手のうえ、一問一答形式でお願いします。
それでは、何かご意見のある方はいらっしゃいますか？

【地区住民】 建設候補地の場所がはっきり分からないので、もう少し詳しく説明してもらえないか。

【事務局】 (航空写真及び地形図にて建設候補地の位置を説明)

【地区住民】 地形図(説明資料)に表示されている建設候補地の範囲である赤点線枠は、まっすぐに見えるが沢に沿った形になっていないのか。

【事務局】 沢は北側と南側にありますが、どちらの沢でしょうか。

【地区住民】 南側の沢あたりに自分の所有する土地がある。建設候補地は、その沢沿いに計画されているのではないのか。

【事務局】 実際には測量などを行った上で場所の確定を行っていきますので、現段階では、この赤の点線はあくまで目安というかたちで見てください。

【事務局】 一応、皆さんも道路(町道)を通られているのでご存じだとは思いますが、田代川に建設候補地が張り出しているわけではなく、道路沿いには尾

根があります。細い尾根ではありますが、その中に処分場を建設する予定です。あくまで候補地であり、まだここに決定したわけではありません。この尾根の中に囲まれたかたちになるので、直接粉じんが舞ってくることはないと思います。というのが、尾根が無かったら直接的に田代川に沿って吹く風に乗って舞ってくることは考えられますが、そこについては尾根で粉じんが遮られると考えています。

【地区住民】 処分場の入り口はどちらになるのか。

【事務局】 町道のお墓の前の作業道から入っていくことになります。

【地区住民】 処分場への入り口はその1箇所だけか。国道からの入り口はないのか。

【事務局】 入り口は町道からの1箇所で計画しているところです。

【地区住民】 町道から入る道路は、相当拡張しなければいけないのではないか。

【事務局】 そこについても、今後の調査というかたちでどういうふうに設計していくか、作っていくかを調査結果をもとにしっかり時間をかけたいと思っています。急いで造って『何かあった』というわけにはいかないので、そこはじっくりさせていただきたいと思っています。

【地区住民】 相当な工事車輛の往来があると思う。例えば、工事期間中は、整地するために残土処分や生コンの打設、使用機材及び材料等の搬入などもろもろの車輛の出入りが想定される。その際、国道327号から町道に入ってくる工事関係車輛の一日あたりの台数について計画はまだわからないのか。

【事務局】 そうですね。実際にこの処分場建設候補地の詳細な調査をこれから始めるので、こういった工事については、詳細な設計等をつくった後になります。まずはこの土地関係、地質関係や測量調査関係などを進めていった中で、ひとつひとつの疑問点を調べていくことで、この土地の関係を固め、その上でどういう施設をつくっていくか。先ほど説明しましたオープン型の処分場でいくのか、屋根付きの処分場でいくのか。それによっても工法関係が変わってきますので、詳細な部分については、当該地の調査をした上で段階を踏んで計画を立てていくようなかたちとしております。

【地区住民】 もう一ついいですか。工事車輛が国道 327 号から町道を通って現場に行く場合、建設候補地の入り口から 300mほど小川吐に入るまでの箇所（国道 327 号から建設候補地入り口までの町道区間）を通ってみれば分かると思うが、町道の田代川側の路面が下がってしまっていたため、役場（美郷町）に言って、やっと道路の補修工事をしてもらった。町道は国道と違って舗装構成が薄いので、下がりやすい。工事車輛 10 t が相当行き来すると思うので、道路の路面が下がることも前提に頭に入れてもらって考えてもらわないと上の原、小川、うち（仮迫）、南郷の人も生活道みたいな感じで小川吐に出ていく。いまトンネルが抜けてるから、みんなこの道路を使うんですよね。生活道なものですから、そこあたりは役場（美郷町）の建設課に相談をしながら進めてもらおうとありがたいと思う。

【事務局】 そちらにつきましては、実際にこれからそういったところの生活環境影響調査を実施する予定です。施設整備を行う上で、こういったご意見もありましたということは承ったうえで、段階を踏みながら対応関係の協議のほうを進めていくかたちになると思います。現時点では、これから調査に入っていくかたちになるのでこういった話があったということ承るということでもよろしかったでしょうか。

【事務局】 補足になりますが、美郷町の建設課の維持係があると思うので、工事に入る前には事前に着工前の舗装の損傷具合を施工業者と建設課で確認した上で、工事を行ったあとにその影響によって壊れてしまった（道路面の損傷や沈下）という場合には、原因者が役場（美郷町）と協議をしながら補修していくことになると思います。

【地区住民】 風について、年間を通じて多いのは、北のほうから山之口、仮迫、小川に向かって吹いてくる北風。それから台風が過ぎた際は、反対に南風が吹いてくる。おそらく風向きというのは決まっていると思う。工事車輛のほこりがそういうふうに、この地区に吹いてくると思う。

【事務局】 風に関する詳細な調査もこれからなので、風量、風向を仮迫地区だけではなく、他のところも含めてどのように吹くのか、どれくらい吹くのかを調査します。

工事車輛については、粉じんが発生しないように散水やタイヤの洗浄といったことを実施します。最終処分場に入る車輛についても、先日、現処分場を実際に見てきましたが、粉じんが発生しないように出て行く際に必ずタイヤを洗浄しています。出来るだけ湿らせるかたちで粉じん対策を行

いたいと思います。

【地区住民】 いまの話は次期最終処分場が出来るまでの説明だと思うが、処分場が完了した後は、家庭から出る燃えないごみは直接ごみの持ち込みを行ってもいいのか。一般の人たちが軽トラックで持ち運んで処分することが出来るのか。決まった業者だけが直接持ち込むのか。

【事務局】 いま現在は、燃やせるごみは富高の清掃センターで集めたごみを燃やして、燃えないごみは日向市の幡浦にあるリサイクルセンターに持って行って細かくしたものを最終処分場に処分しています。清掃センターでは燃え残った灰を最終処分場に持ってくるので、家庭から直接最終処分場に持ってくるというものではないんです。なので、今回、施設ができた後についても、いままでと同じように回収は燃えるごみと燃えないごみでそれぞれ町が回収して処分するというので、家庭から持ち込む施設ではないということになります。

【地区住民】 例えば家庭ではブロックや瓦のくずなどが出ると思うが、わざわざ日向に持って行ってから日向から砕いたものをもって来なくても、せっかく近くに最終処分場ができるのだから、少しは直接利用ができたほうがいいと思う。

【地区住民】 以前は山之口のしものほうに、採石場があった。その採石場で粉じんや音、ダンプの出入りで何十年も悩まされてきた。今度、最終処分場が出来るとまたかという気持ちがある。決まっていることはしょうがないが、なかなか歓迎は出来ない。粉じんとか、さっき風向きの話があったように、洗濯も干せない時期もあった。音がするので話が出来ない。そういったこともあり、今度もまたこのようなことが起きるとどうかなと思う。説明を見ると安全なようにあるが、なかなか地元住民は迷惑を被っているので正直なところ歓迎は出来ない。

【事務局】 その過去の話については、区長さん達から聞いています。洗濯物が干せないとか、茶摘みも出来ない。という話も聞いておまして、今回施設整備を行うにあたってのテーマのひとつに『自然環境や生活環境など環境に配慮した施設とします。』ということで、建設候補地の近くはもちろんですが、遠く離れた場所であっても必ずそういった生活環境に配慮するために、さっき説明であったように持ち込まれる灰については薬品と水で処理

してある程度飛ばないかたちにして処理します。

音についても、日向市の最終処分場のすぐ近くがわたしたちの職場なんですけど、大きな音がするという施設ではないので、焼却灰については1日2回焼却灰が車で持ち込まれて、リサイクルごみが不定期で持ち込まれます。車が常時、行ったり来たりということにはなりません。そういった意味では過去の話から皆さん心配されているのは十分理解していますので、迷惑をかけないようにいまからの設計です、どういった設備、施設にするかを考えていきたいと思っています。よろしくお願いします。

【地区住民】 環境に配慮して施設を造るというのは分かるが、施設ができたとして耐用年数というか永年的に大丈夫という確約はとれるのか。

例えば、ちゃんと処理をした状態で大丈夫という説明があったが、もしそれが何らかの地震などの天災でもしということはないのか。

【事務局】 こういった施設なので、ある程度の災害、大雨や地震には大丈夫な設計をしていきますので、それをどのレベルまでか、ということについてはいまから協議していきます。例えば、50年に1回来る災害に耐えるとか、100年に1回になど、『絶対に何が起ころうとも大丈夫。』というのは、もちろんどんな建物でもどんな施設でもいえ言えないと思いますので、その安全のレベルをどう考えるかがいまからの設計段階です。

【地区住民】 贅沢を言うなら、ここにいる中で若い人間は何人かしかいないわけだから、ここに参加して話を聞いていてもゆくゆくは居なくなる人のほうが多いわけで、きっちりとした確約のようなものがほしいですね。自分としては、耐用年数は分かれば教えてもらいたい。

【事務局】 あとひとつ付け加えるとすれば、先ほど説明で埋め立ての容量的に埋立て期間については、15年程度を計画しているということで、15年経ったあとについても、埋立てたものの上に雨が降るか、屋根付きの建物の場合人工的に水をまきますが、そういった水が基準値以下になるまでちゃんと水処理施設を稼働させて、基準値以下になった時点で、次の緑地とか公園とか、全国的にいろんな利用形態がありますが、それが基準値以下になれば安全ということになります。ただそれが何年後かということはその施設毎に雨の量などの条件があるので、そこははっきり言えないところです。

【地区住民】 説明の中で最終処分は灰とか茶碗ガラス、土などと書いているが土には汚泥も含まれるのか。

【事務局】 汚泥も含まれます。ただその汚泥も、例えば、水道の水処理場、下水処理場とかで出る汚泥も薬品等で処理をしたあとにある程度乾燥させて害が無い状態にしてから一緒に処分場に処分します。皆さんの汚泥のイメージがどのようなものか分かりませんが、わたしは最初汚泥はドロドロのイメージだったんですけど、この前現場で見たときにはサラサラの状態です。『これが汚泥ですか』という状況でした。

【地区住民】 大体、汚泥といったらドブの底に溜まったようなヘドロという認識ですが、認識はそれでいいか。

【事務局】 そうです。それが薬品等で処理場で処理をされた状態でダンプに乗って処分場に来て、降ろしたときにサラッとしていました。『これが汚泥ですか』という感じで、わたしも4月にこの業務第1係に来たので、いろいろ勉強させてもらっていますが、素人目で見てもビックリするくらい。それくらいちゃんと処理をした上で処分場で処分して覆土をして対応をしています。

【地区住民】 以前、日新商会という建物があって、先ほど話が出たように粉じんとかに悩まされてきた。それが、汚泥を処分した場合、乾燥しないと季節によっては汚泥の匂いで必ず蚊が寄ってくる。今回の処分場の建設候補地については、花水流区と基本合意したとのことであったが、仮迫区は蚊帳の外だなとの思いがあった。

【事務局】 いま、事務局のほうから汚泥について、乾燥した状態で害のないようにしてという説明がありましたが、わたしも先日、現処分場に一般廃棄物の処分状況の確認に行きましたので補足になりますが、埋立地内には穴を掘っていることがあります。その穴の中に、バキュームで側溝の土砂などを吸い上げた汚泥等を流して、そこで浸透させて最終的に処理施設で処理するかたちをとっていました。さきほどサラサラの汚泥という話があったものは、上水道水をつくる段階での汚泥で、耳川から取水したものが権現原の浄水場で沈殿処理をします。その汚泥を、パック処理といって機械で圧縮することによって水分を抜いてしまうので、チョコレートのようなかたちになったものを汚泥として処分しているので、これについては乾燥し

たようなかたちになっています。先ほどの説明の処分場を確認した日には、処分場に側溝土砂等の汚泥搬入がなかったのだと思いましたので、補足で話をさせていただきました。

【事務局】

もうひとつ、匂いのことについて心配であるとの話がありましたけど、私たちも職場が現処分場と近いのですが、季節によっては職場の窓をずっと開けています。ですが、特に匂いがひどいということはありません。

施設の供用後についても、私たちのいる清掃センターでは地元の区長さんと毎年懇談会を実施しています。おそらく、そういった場が出来ると思いますので、匂いがひどいとか、粉じんがひどいとか、そういった話はきちんと意見をあげてもらって、一緒に解決するためにどうしたらいいのかという、そういうことをするようにしていけたらとは思っています。

【地区住民】

匂いは完全に遮断してもらわないと困る。それだけは。ヘドロみたいなものでしょう。水を含んで地震がきたときに液状化になったりして、匂いがしないというが、匂いはしそうなものである。

**【委託業者：
建設技術研究所】**

そういうベチャベチャな汚泥は生の状態で外においておくとやはり匂いますよね。ただ、先ほど説明であったように穴を掘ります。穴も2mから3mも深く掘ります。さらにその上に灰等を入れるとある程度匂いも外に漏れなくなりますよね。それをサンドイッチのように埋立てていくようなやりかたもありますし、入れるものと処分場の形でいろいろと工夫ができます。現処分場も地元の方々から悪臭による苦情等も出ていない状況なので、そこについてはこれから十分配慮した設計を考えていきたいと思えます。

【地区住民】

さっきから言うように風向きは建設候補地から南側に吹いてくるので悪臭があったら確実に影響を受ける。十分に気をつけてもらわないと匂いが出たら生活が出来なくなる。

【地区住民】

これだけ言っているわけだから、どちらにしても造らなければならないものは造らなければいけないわけなので、だから気持ちを持って造っていただきたいんですよね。自分的には。そうじゃないですか。結局最後は気持ちなんですよ人間ってね。気持ち良く生活する、ゆくゆくは後世に残していく住まいっていう気持ちの部分を考えてやっていただきたい。というように思います。

【事務局】 わかりました。今回、仮迫区ではこういった場を説明会というかたちで開催するのは初めてのことだったと思いますが、これまでは広い範囲では説明会を実施をしてきました。そこでもいろいろな意見が出されていますので、そういった意見は参考にしながら、いまの気持ちの面についても出されたご意見としてしっかりですね、匂い対策や環境についてもこれからいろいろとつめていく事柄が多いわけです。そういったことを検討しながら、進めていきたいと思います。

【地区住民】 スケジュールを見ると令和10年から12年度が建設工事予定だが、この時期になるともう残土がどのくらいとかある程度の目安がついていると思う。国道から町道に入って現場に行く車が一日どのくらいかが数字的にわかると思うので、この頃になったらもう一度こういった説明会を開催してもらえないか。どっちみちわたしたちは生活道路なので離合するところもないし、いろいろと不便が重なるといけないのでそこあたりの台数とかいろいろわかればと思うので、設計工事が始まる前の時期になったら、忙しいかもしれないけど、わたしたちみんなに説明してもらえるとありがたいと思う。

【事務局】 それについては、しっかり約束させてもらって引継ぎ事項に入れて、工事の始まる前にはこのような場を設けたいと思います。

【地区住民】 よろしくをお願いします。

【司会】 ありがとうございます。他によろしかったでしょうか。
今日は皆さんお忙しい中、説明会に参加していただき誠にありがとうございました。

いただいたご意見につきましては、真摯にわたしたちも受け止めた上で、一生懸命これからの業務を関係機関と協力しあって、皆さんにご迷惑をおかけしないように環境に優しく、皆さんのためになる処分場となるよう、しっかりと調査のほうから計画策定、ひとつひとつ進めさせていただきます。

今後も相談させていただきながら進めさせていただきながら、また皆さんの貴重なご意見等いただけたらと思いますので、ご協力をよろしくお願いします。

今日はありがとうございました。

～ 閉 会 ～